

～みんながまちでくらすために～

仙台で見つけたみんなのつながり事例集



平成 30 年 3 月

仙台市障害者自立支援協議会 地域部会

◇ 目次

はじめに	P. 1
事例編	P. 2
1. 平成29年度地域部会で収集した事例一覧	P. 3
2. 主な事例の内容とそのポイント	P. 6
解説編	P. 12
1. 本事例集作成の経過	P. 13
2. 資源を把握していくためのポイント	P. 15
3. 資源を開発していくためのポイント	P. 16
4. 本事例集の活用方法	P. 17
(1) 本事例集の事例のまとめ方	
(2) 活用例	
(3) 本事例集を元にした展開	

〔巻末〕参考資料：

泉区障害者自立支援協議会障害者相談支援事業所等連絡会の取組みにかかる資料



障害理解促進キャラクター
「ココロン」

はじめに

本事例集は、平成 29 年度仙台市障害者自立支援協議会地域部会での取り組みをもとに、部会で取り扱ったインフォーマル・ナチュラルな資源の事例や、そのような資源を把握・開発していくためのポイントをとりまとめた資料です。

インフォーマルな資源とは、公的な制度・サービスによらない社会資源であり、ナチュラルな資源とは、近所付き合いや友人・知人、顔なじみあるいは常連の関係性などといった、個別的・自然発生的に我々の生活の随所で育まれている社会資源です。

障害のある方から様々なお話を聴くなかで、“決してフォーマルなサービスだけで生きているわけではない”という言葉を伺うことがしばしばあります。

障害のある方が地域で当たり前に暮らしていくということを考えたとき、インフォーマル・ナチュラルな資源を把握し、活用していくという視点が支援者には求められてきますし、地域や事業者の方々、また当事者の方々とも、そのような意識を広く共有していくことが、これからの地域共生社会を目指していくにあたってとても重要です。

部会の中では、各区障害者自立支援協議会での事例収集を通じての様々な工夫や気づき、また、事例を収集・共有する意義や、どのような切り口で事例をまとめると効果的かといった、有意義な意見・アイデアが沢山寄せられました。

一方で、本市における新しい視点による社会資源開発に関する取り組みは、まだ始まったばかりです。今後、本事例集のバージョンアップも視野に入れた、資源の把握・共有の取り組みをより一層推進していく必要性があると考えています。そのきっかけとして、本事例集が支援の現場や、地域、区障害者自立支援協議会等で有効に活用されることを期待しています。

仙台市障害者自立支援協議会 地域部会

部会長 大坂 純

事例編

実際に仙台にあるインフォーマル・ナチュラルな資源の事例を元にとりまとめました。
きっとみなさんの周りにも似たようなつながりがあると思うので、見つけてみてください。



- ※ 『1. 平成 29 年度地域部会で収集した事例一覧』では、分類ごとに整理した事例の見出しを掲載し、そのうちピックアップした事例について、『2. 主な事例の内容とそのポイント』でその具体的内容とポイントについて紹介しています。
- ※ 特定の個人や機関が特定されないよう、実際の事例の内容を他の事例と共通する部分などは統合して改変し、架空化・一般化した形で掲載しています。

1. 平成 29 年度地域部会で収集した事例一覧

分類	資源の内容	具体例	2 掲載No.
互助	隣人・知人	・区役所の手続に付き添ってくれる隣人	
		・近隣住民同士の支え合い	1
		・体調悪化時に手助けをしてくれる近隣の友人	2
		・様々な手助けをしてくれる知人	3
	町内会	・近隣住民や町内会、近所の商店による見守り	4
		・近隣住民や商店等地域の方々の見守り	5
		・民生委員や近隣住民、町内会による見守り①	6
		・民生委員や近隣住民、町内会による見守り②	7
	ボランティア見守り活動	・学校の登下校の見守り活動	
		・地域の有志による見守り活動	
	有償ボランティア活動	・タイムリーに対応してくれる有償ボランティアによる付添サービス	
	共同組合の助け合い活動		
	傾聴サークル	・電話、訪問など様々な形で話を聴いてくれる活動をしている団体	
地域 支援者	民生委員児童委員	・民生委員や近隣住民、町内会による見守り①	6(再掲)
		・民生委員や近隣住民、町内会による見守り②	7(再掲)
	地区社会福祉協議会	・小地域福祉ネットワーク活動による雪かき支援	8
		・民生委員や近隣住民、町内会による見守り②	7(再掲)

P.6

P.7

P.8

P.7

分類	資源の内容	具体例	2 掲載No.
団体	当事者団体		
	宗教団体	・宗教関係者による見守り	9
趣味活動	様々なスポーツやダンス、音楽、習い事等のクラブ・教室	・色んな人が一緒に参加しているバスケットボールクラブ	
		・色んな人が一緒に参加しているバトミントンサークル	
		・サウンドテーブルテニス（STT）のクラブ	
		・当事者の親がインストラクターをしているダンス教室	
		・主に市民利用施設で活動するレクリエーションサークル	
		・自閉症の方が利用しているピアノ教室	
		・地域在住のスポーツコンサルジュ	
		・興味のあるスポーツクラブでの成長	10
		・家庭文庫をきっかけに通い始めたアート教室	11
医療	歯科医院	・治療に至るまで、ならし期間を設けてくれる歯科医院	
		・本人にとってサロンとなっている歯科医院	12
民間サービス	個人タクシー	・法人タクシーよりも、常連・顔見知りの関係になりやすい個人タクシー	
		・世間話から親切な対応をしてくれたタクシー運転手	13
	アパートオーナー	・入居先住宅の大家による手伝い	14
	配達等に付随した見守り・安否確認	・新聞配達や、共同購入配達等での見守りサービス	
		・配食・配達サービスのオプションとしての安否確認サービス	
	家政婦紹介所		
	アロマセラピー	・重症心身障害の方の施設訪問をしている先生	

P.8

P.9

分類	資源の内容	具体例	2 掲載No.	
民間 サービス (店舗)	美容室・理容室	・伸びきってしまった髪の毛きちんと切ってくれる理容室	15	P.10
		・自宅まで送ってくれた理容室	16	
		・長年通って安心して利用できる理容室①	17	
		・長年通って安心して利用できる理容室②	18	
		・長年通って安心して利用できる理容室③	19	
	個人商店	・常連・顔見知りの関係になりやすい個人商店		P.6 P.7
		・近隣住民や町内会、近所の商店による見守り	4(再掲)	
		・近隣住民や商店等地域の方々の見守り	5(再掲)	
	コンビニエンスストア	・タッチパネル操作を手伝ってくれるコンビニ		P.11
		・地域の見守り活動の一員になっているコンビニ		
		・福祉サービス事業所の近くにあり、利用者が訪れた際に事業所にお知らせしてくれるコンビニ		
		・会計の際に柔軟に対応してくれるコンビニ	20	
		・本当に困っているときに柔軟に対応してくれるコンビニ	21	
	大型ショッピングセンター／スーパーマーケット／喫茶店	・サロンがわりになっているイートインコーナーやフードコート、喫茶店		P.11
	その他商店	・困った時をお願いをしたら電話を貸してくれたCDショップ		
	スポーツクラブ	・風呂掃除が出来ない人、普段入浴の習慣がない人が活用しているスポーツクラブ		
施設等	図書館	・本の貸し出しの他、様々なイベント・レクリエーションがあったり、憩いの場としての集える図書館		P.11
	競技場	・見学ツアーに参加できるスタジアム		
	社会福祉関係施設	・日中の居場所となっている社会福祉関係の施設	22	

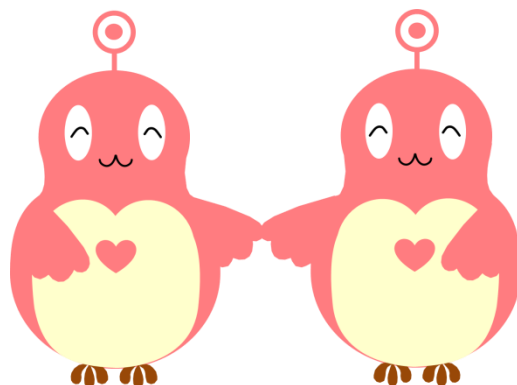
2. 主な事例の内容とそのポイント

No.1	互 助	近隣住民同士の支え合い
内 容	同じ福祉サービス事業所を利用しているという共通点を持つ家族たちが、例えば耳が遠い親の代わりに事業所へ電話連絡したり、男手の足りない家族に手を貸したりなど、それぞれが大変なところをお互いに助けあいながら生活している。	ポ イ ン ト ある共通点からの繋がり りで、フォローし合えるよ うな関係性を作ることが できる。
No.2	互 助	体調悪化時に手助けをしてくれる近隣の友人
内 容	単身生活の方が、体調の悪化により外出もままならない状態になったが、近隣の友人が買い物やゴミだし等を手伝ってくれる。	
No.3	互 助	様々な手助けをしてくれる知人
内 容	医療に拒否的な人がいるが、2人暮らしの父親もまた高齢で心身に不調が見られている。父親の知人が2人の状況を把握し、こまめに足を運んでおり、相談機関への相談や公的な手続きの手伝い、入院への付き添いなど協力してくれている。今後の生活を組み立てていくにあたって支援者にも協力的である。	ポ イ ン ト 本人やその家族の知人 友人が、本人たちの生活を 支えていることがある。そ のような存在を本人たち が自発的に知らせてくれ るとは限らないので、アン テナを張ることが大切で ある。
No.4	互 助	近隣住民や町内会、近所の商店による見守り
内 容	夜中に大声を出したり、近隣宅のチャイムを鳴らす方に対して、町内会や近隣住民、地域包括支援センター等がケア会議を開き、情報共有や見守り方の確認などをして、見守り活動を行っている。 特に、本人が毎日のように立ち寄る商店では、本人の話を聞いてくれている。	ポ イ ン ト 近隣が困ってしまうよ うな行為をする人がいて も、町内会等を中心に近隣 住民が協力し合うことで、 本人を見守りながら一緒 に地域で暮らすことがで きる。

No.5	互 助	近隣住民や商店等地域の方々の見守り	
内 容	近所に出かけることが好きな方が、顔見知りの近隣住民や商店の方々と、心配なことがあると声をかけてもらえる関係にある。近隣住民や商店の方々は、支援者とも繋がりがあり、本人への対応について気になったり困ったりすることがあれば、気軽に相談できる関係にある。	ポ イ ン ト	地域で顔見知りの関係をつくることで、本人が安心して外出ができる。
			また、支援者も同様に地域の方々と関係をつくることで、地域の方々も安心して本人を見守ることができる。
No.6	互 助	民生委員や近隣住民、町内会による見守り①	
内 容	病状悪化により支援者による公的な支援が必要な状況になったが、話好きな本人の性格もあり、これまで日常的に付き合っていた近隣住民や民生委員、町内会が気にかけてくれている。 また、本人への接し方等について、支援者から地域の方々にアドバイスをしながら、今後も見守りを続けていく。	ポ イ ン ト	地域での関係性を日頃から構築することで、病状が悪化するなどしても、地域住民が気につけ、見守ってくれる。
			また、適切に支援者も支援に入ること、地域も安心して見守ることができる。
No.7	互 助	民生委員や近隣住民、町内会による見守り②	
内 容	時折町内で不安定になってしまう方がいるが、昔から関係があり、本人が信頼している民生委員が中心となり見守りや生活上の困りごとへの対応等をしてくれている。地域で状況や対応方針を共有する機会も設けており、町内の人々も体調や状況が悪化したとき等には集まったりして、見守りを続けている。民生委員や町内会役員といった地域のキーパーソンの代替わりの際には引継を行っており、先代の関わりも継続している。 また、支援者も適切なタイミングで支援に入っており、地域と支援者が互いにうまく役割を担いながら本人の地域生活を見守っている。	ポ イ ン ト	近隣に不安定になってしまう人がいても、町内会等を中心に近隣住民が協力し合うことで、本人を見守りながら一緒に地域で暮らすことができる。
			また、適切に支援者も支援に入ること、地域も安心して見守ることができる。

No.8	地域支援者	小地域福祉ネットワーク活動による雪かき支援
内 容	<p>隣で一人で暮らしている車いす利用者の方のために、雪かきをしている民生委員がいたが、高齢になり対応が難しくなってきたので、相談支援事業所に相談した。相談支援事業所からコミュニティソーシャルワーカーに相談し、把握している情報や繋がりをもとに、地区社会福祉協議会の小地域福祉ネットワーク活動に本人を繋げることで、雪かき支援を受けられるようにした。</p>	<p>ポイント</p> <p>区社会福祉協議会事務所のコミュニティソーシャルワーカーは、地区社会福祉協議会の活動とのネットワークづくりに関する支援役を担っている。</p>
No.9	団 体	宗教関係者による見守り
内 容	<p>公的なサービスの利用に拒否感のある方が、宗教関係者の訪問や見守り、手続同行といった家族のような関わりによって生活している。</p>	
No.10	趣 味 活 動	興味のあるスポーツクラブでの成長
内 容	<p>本人の興味のあるスポーツができるクラブに通っている。最初は家族が送迎していたが、本人の熱意があったためか、一人で通えるようになり、また、クラブで交友関係が生まれ、活動・行動範囲が広がっている。</p>	<p>ポイント</p> <p>本人の興味のあることを続けることで、交友関係、活動・行動範囲を広げることができるようになる。</p>
No.11	趣 味 活 動	家庭文庫をきっかけに通い始めたアート教室
内 容	<p>学生時代、知人の紹介で親と一緒に過ごせる家庭文庫に通っていた。さらに、その家庭文庫から得た情報で、現在はアート教室に通い創作活動をしている。</p>	<p>ポイント</p> <p>何かをしたいとき、その情報にアクセスするためには、当事者、家族、支援者が様々な人と関係を持ち、相談することが大切である。</p>

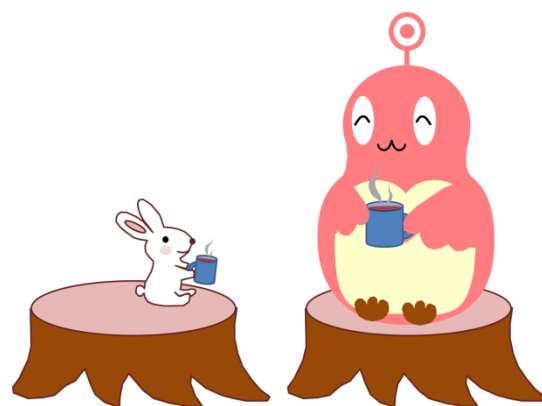
No.12	医 療	本人にとってサロンとなっている歯科医院
内 容	<p>かつて家族と通院していた歯科医院に、診察日でなくとも一人で立ち寄って待合室で本読んだりして過ごしている人がいるが、歯科医院も温かく見守っている。</p> <p>入院治療が必要な場合は、歯科医院が支援者からの情報を受けて本人のペースで治療をするなど柔軟な対応をしてくれる。</p>	<p>時間をかけて関係性を構築することで、本人もその場所に慣れるし、病院側も本人の特性を十分理解して対応してくれるようになる。</p>
No.13	民間サービス	世間話から親切な対応をしてくれたタクシー運転手
内 容	<p>エアコンが故障し新たに購入が必要だったが、なかなか計画的にお金をためられず購入できない人がいた。家族の通院同行の際、常連の個人タクシーの運転手にその話をしたところ、偶然その運転手が知っている業者を紹介、連絡までしてくれ、予定よりも安く購入することができた。</p>	<p>常連という関係性を作るなどして、色んな人に困っていることを相談してみると、思いがけず助けてもらえることがある。</p>
No.14	民間サービス	入居先住宅の大家による手伝い
内 容	<p>アルバイト先の店主で、かつ入居先住宅の大家でもある人が、長年の付き合いがある中で、单身生活で病状が悪化した際に食事やゴミだしなど様々な世話をしてくれた。</p>	<p>家族でなくても時間をかけて関係を構築することで、親身になって助けてくれることがある。</p>



No.15～19	民間サービス（店舗）
<p><u>No.15：伸びきってしまった髪の毛もきちんと切ってくれる理容室</u></p> <p>ひきこもりがちの方が、数年間髪の毛を切っていなかったが、ふらっと立ち寄った理容室で伸びきった髪の毛を切ってもらった。</p> <p><u>No.16：自宅まで送ってくれた理容室</u></p> <p>髪の毛を切りたいと思った本人が、急に理容室に出かけて散髪をしたが、家に帰れなくなってしまったところ、理容室の方が心配して自宅まで送ってくれた。その際の家族との会話で「またいつでも利用してください」と言ってもらえた。</p> <p><u>No.17：長年通って安心して利用できる理容室①</u></p> <p>家族が本人の小さい頃から本人の特性を伝え、理解してもらうことで、地域の複数の理容室で臨機応変な対応をしている。</p> <p><u>No.18：長年通って安心して利用できる理容室②</u></p> <p>幼少時、近所の理容室に母が出向き、本人の状態像を伝えたと、利用できるよと言われ、以降、長年通い続けている。</p> <p><u>No.19：長年通って安心して利用できる理容室③</u></p> <p>昔から家族ぐるみで付き合いのある理容室では、本人が利用する際に、貸切にして本人の好きな音楽をかけたりといった工夫をしてくれるので、本人はリラックスして利用することができ、家族も安心している。</p>	<p>様々な配慮をしてくれる理容室の情報が多いため、配慮して欲しい内容を伝えてお願いしたり、本人が子供の頃から関係づくりをすることが大切である。</p> <p>ポイント</p>



No.20	民間サービス(店舗)	会計の際に柔軟に対応してくれるコンビニ
内 容	金銭管理が困難な利用者の方が、コンビニのレジで品物と所持金を全て出すと、店員が所持金の範囲で買えるものを教えてくれたり、計算してくれたりするなど柔軟に対応してくれる。	ポイント 金銭管理が不安でも安心して会計を委ねられるコンビニがある。また、そのような対応をお願いできる余地がある。
No.21	民間サービス(店舗)	本当に困っているときに柔軟に対応してくれるコンビニ
内 容	単身の方で、退院直後体調が悪く、買い物に行けないような状況の時に、「本当に不調なときだけ対応して欲しい」という家族の依頼もあって、近所のコンビニが温めた弁当の配達をしてくれた。その後は、福祉サービスや別の宅配サービスを利用したり、本人が自炊を始めたことから、近所のコンビニにお願いすることはなくなった。	ポイント 家族・支援者がきちんとフォローする体制をとることで、本当に困った時に限って、何か特別なことをお願いしてみると、対応してもらえることがある。
No.22	施 設 等	日中の居場所となっている社会福祉関係の施設
内 容	余暇活動や居場所支援について、制度上のフォーマルサービスにつながりにくい方がいた。支援者が本人の人間関係に着目して、長年関わりのある知人が勤めている社会福祉関係の施設に日中の居場所として本人が通うことを打診したところ、快く受け入れてもらった。	ポイント 本人の人間関係に着目すると、フォーマルサービス以外にも余暇活動や居場所支援に繋がる余地がある。



解説編

本事例集作成の経過や、資源を把握・開発していくポイント、活用方法などについて紹介します。



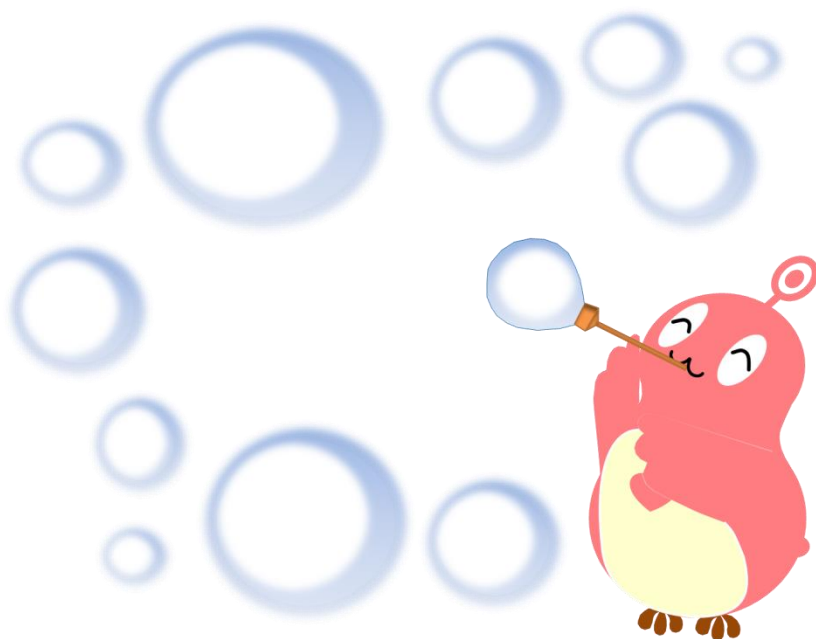
1. 本事例集作成の経過

本市のこれまでの社会資源に関する取組みの歴史的背景としては、モデル事業を経て平成 15 年度から本格実施となった障害者ケアマネジメント事業の理念と目標の一つとして、社会資源の開発・改善を通して地域づくりを推進することが謳われてきました。しかしながら、本事業はどちらかと言えば個別支援に関する取組みが中心となりがちで、社会資源の把握や活用、開発をテーマとした大きなケアマネジメントの取組みはあまり進めることができていませんでした。

こうしたなか、平成 29 年 2 月に国が今後の大きな施策の方向性としてとりまとめた『地域共生社会』の実現に向けて（当面の改革工程）」においては、地域の様々な資源を活かしながら、住民が繋がり支え合う取組みを育んでいくことの必要性が示されました。こうした『地域共生社会』の動向も踏まえて、平成 29 年度の地域部会は、まず厚生労働省から講師を招いて国の示す『地域共生社会』について勉強会を開催したうえで、改めて社会資源に関する取組みを推進するべく、インフォーマル・ナチュラルな資源の事例共有等の取組みを行ってきました。具体的な取組みの経過は P.14 の表「平成 29 年度障害者自立支援協議会 地域部会 取組みの経過」のとおりです。

本事例集は平成 29 年度の部会での取組みをもとにとりまとめた資料です。実際に部会で共有したものを中心に具体の事例を掲載したうえで、部会での意見・アイデアを中心に、資源を把握・開発していくためのポイント、活用例を紹介しています。

本事例集をベースとしながら、今後も地域部会として、事例を広く集め、共有していく取組みを推進していきたいと考えています。



〔表：平成 29 年度障害者自立支援協議会 地域部会 取組みの経過〕

日程	会議名称	内容
5/27(土)	勉強会	<p>『「地域共生社会」の実現に向けて』が想定する「地域」とは？ ～国のマクロな議論について共有し、地域づくりに役立てよう～ ⇒厚生労働省の専門官を招いての講演</p> <p>・ニーズが複雑化したり生活基盤が弱まっているという社会背景の中で、共助・公助を推し進めていくことはもちろん、地域の自助・互助の力を高める必要があるという基本的な理念を説明していただいた。</p> <p>・また、自分たちの地域にすでにある取組み等を知ったり共有して欲しいというお話もいただいた。</p>
9/7(木)	第 1 回 部会	<p>①. 平成 29 年度の地域部会の進め方について ⇒部会の進め方について合意した。</p> <p>②. 各区自立支援協議会及び各専門公所の取組みについて ⇒各区・公所の取組みについて情報共有を行った。</p> <p>③. 地域のインフォーマル・ナチュラルな資源の事例共有について ⇒試行的に事例共有を行い、集め方・進め方等について意見交換を行った。</p>
12/5(火)	第 2 回 部会	<p>①. 事例集の取扱いについて ⇒事例集の取扱いや構成案等について意見交換を行った。</p> <p>②. 地域のインフォーマル・ナチュラルな資源の事例共有 ⇒各区自立支援協議会で収集した事例を基に事例共有を行った。</p>
2/1(木)	第 3 回 部会	<p>①. 各区自立支援協議会及び各専門公所の取組みについて ⇒各区・公所の取組みについて情報共有を行った。</p> <p>②. 事例集について ⇒事例集の内容について意見交換を行った。</p> <p>③. 今年度の取組みの整理及び次年度の取組みについて ⇒今年度の取組みについて整理を行い、次年度の取組みの方向性について確認を行った。</p>

2. 資源を把握していくためのポイント

平成 29 年度の部会で、資源を把握していくためのポイントとして、主に下記のような意見やアイデアが寄せられました。

〔持つべき意識・認識〕

- 一つの事例として特定の人たちの関係性の例が出たとき、類似の事例が他の関係性においても起こり得るという幅広い見方をしていく意識が大切。
- 当事者の方々は、支援者・公的サービスだけで生活をしているわけではないという認識が必要。
- 当事者の方々から暮らしの中の工夫や関わりを教えてもらっているという意識が必要。

〔集め方：個別支援において〕

- 当事者の方にどのように暮らしているのかを聞くと、自然に様々なことを教えてもらうことができ、そこに様々な人との繋がりがあることが分かる。今までどのように生きてきたのかをざっくばらんに教えてもらうとよい。
- 地域の人と関わる時は、その地域に混ぜてもらおうというのが基本となる。また、その独自の地域性があるのでそれ知り、きちんと従うことが大切。

〔集め方：協議会・部会として〕

- 事例を集めていく際は、相談支援の従事者だけでなく、他の支援者や支援者以外にも広く呼びかけていくとよい。
- 気軽に事例を出せるように丁寧な趣旨説明や様式を使う場合は様式に工夫が必要である。

参 考

《 泉区障害者自立支援協議会での取組みの紹介 》

泉区障害者自立支援協議会では、部会への事例の提出にあたり、障害者相談支援事業所等連絡会でグループワークを実施して事例を集めました。

グループワークでは、部会で定める事例の事前提出様式が求める情報量が多いこともあり、具体の事例の選定までには至らないグループもありましたが、“～らしい”というレベルの情報で多くの事例を話題にしたりと、結果として沢山の事例が集まりました。

また、泉区障害者自立支援協議会として事例をまとめる中で、事例を分類して整理しており（参考資料として部会内でも共有しました）、グループワークで集まった具体の事例やそれをもとにした分類等は、『事例編』に掲載している P.3『1. 平成 29 年度地域部会で収集した事例一覧』のまとめ方の基礎になっています。

なお、このような機会を頻回に設けたり、テーマを設定して実施したりすることで、より多くの事例を集めていけるのではないかと、といった意見も参加者から寄せられています。

※グループワークで使用した資料については、巻末に参考資料として掲載しておりますのでご覧ください。あくまで参考であり、必ずしも全く同じ方法での実施をお奨めするものではありません。

〔把握すべき情報〕

- 個別支援時に参考にすることを想定すると、資源にどう繋がったのか、本人や家族が自分たちをどう理解してもらい、相手がどのように受け止めていったのかという障害理解の過程等が見えてくるとよい。また、相手方にとって最初は何がハードルや困ったことだったのかが分かったと参考になる。
- 事例を共有、蓄積するにあたっては、個人情報に十分に留意する必要がある。

※なお、本事例集の作成にあたっては、特定の個人や機関が特定されないよう、実際の事例の内容を他の事例と共通する部分などは統合して改変し、架空化・一般化した形で掲載するなど、個人情報等に十分に配慮しております。

3. 資源を開発していくためのポイント

平成 29 年度の部会で、資源を開発していくためのポイントとして、主に下記のような意見やアイデアが寄せられました。

- 支援者の介在していない資源の事例から、介在するとすれば何をすればよいかのプロセスを考え、取り組んでみる。
- 一つの事例からどのように資源に繋がったのか等のポイントを捉え、他の方への個別支援の際に紹介する。
- 自分が支援をしている方が誰かから助けもらったとき、その人へ「絶対に忙しい思いはさせないから、本当に困った時はまた助けて欲しい」と一言伝えるだけで、その繋がりが資源になる。
- 手伝ってくれる人、理解者を一人でも増やしていくという意識を持って繋がりを作っていくことが大切である。



4. 本事例集の活用方法

(1) 本事例集の事例のまとめ方

平成 29 年度の部会で区障害者自立支援協議会から収集し、共有した事例を中心にまとめています。

事例は P.2 からの『事例編』において 2 種類の形式でまとめており、『1. 平成 29 年度地域部会で収集した事例一覧』では、分類ごとに整理した事例の見出しを掲載し、そのうちピックアップした事例について、『2. 主な事例の内容とそのポイント』でその具体的内容とポイントについて紹介しています。

なお、特定の個人や機関が特定されないよう、実際の事例の内容を他の事例と共通する部分などは統合して改変し、架空化・一般化した形で掲載しています。

(2) 活用例

本事例集は、区障害者自立支援協議会等を通じて、多くの支援者の方々に手に取っていただくことを想定して作成しています。例えば、区障害者自立支援協議会の様々な会議体の参加者へ配布することで、支援者の方に個別支援時の参考としていただいたり、社会資源をテーマとした研修会等で活用したりすることができると思います。また(3)で後述しますが、今後部会として更なる事例収集・共有を行っていくにあたって、そのきっかけになることも期待されますが、ここに掲げた活用例以外にも様々な活用の仕方が考えられ得ると思うので、各区の障害者自立支援協議会で柔軟に活用方法について検討してください。

なお、支援者向けの事例集として期待される効果について、地域部会で出た主な意見は下記のとおりです。

- 市民の方々がやっている様々な活動を知るだけで支援者が元気付けられ、心強さを感じられる。
- 市民の方々の力を信じたり、頼ったりするきっかけとなる。自分だけが頑張らなくてはいけなくて抱え込んでいる支援者がいたとしたら、そうではないという認識を持てる。
- 経験の浅い支援者にとって、地域資源についての視点やイメージを膨らますきっかけとなる。
- 支援者が介在していない事例も多いが、共有する事例として必ずしも支援者が介在している必要はない。その事例をさらに発展させるために何か働きかけができないか考えるきっかけとなったり、あるいはその事例の資源が特定できる場合には、他の当事者の方も活用できないか検討したりすることができる。また、その事例から参考となるポイント(どのように繋がったのかの過程等)を捉え、他の方への個別支援時に紹介することができる。
- より多くの事例を把握・共有していこうというきっかけになる。

（３）本事例集を元にした展開

平成 29 年度の地域部会の取組みの課題として、事例集のまとめ方・取扱いが曖昧な状況で事例収集を行ったこともあり、時間的な制約もある中で、部会で提案されたまとめ方のアイデアをすべて採用できるほどの数・内容の事例を集めることができませんでした。

上記課題も踏まえつつ、今回本事例集にまとめた各ポイントの内容も共有したうえで、テーマや対象といった要素も意識しながら、今後も事例を広く集め、共有していく取組みは必要と考えており、改めて地域部会としてもそのような取組みを推進していきたいと考えています。

なお、平成 29 年度の地域部会で寄せられた、まとめ方についてのアイデアや、事例集を読む対象者別に期待できる効果についての意見は、下記のとおりです。

① まとめ方のバリエーション

- 支援者向け、当事者向け、事業者向け、地域・市民向けといった対象者別の事例のまとめ方ができる。
- ライフイベントに沿った事例のまとめ方ができる。
⇒（具体例）例えば、本人の成長につれて、七五三、学校の卒業式、成人式というイベントを迎えていくにあたり、親として写真館で写真を撮ってあげたいと思ったとき、それぞれの段階でどのように配慮・協力してもらえればよいかが分かるようなまとめ方ができる。
- インフォーマル／ナチュラルの分類、発展段階の整理があると見やすく活用しやすくなる。個別支援等においても、ある事例が今どの段階にあるのか、これからどういう工夫ができるか、といった見方ができる。

② 対象者別に期待される効果

〔ア〕当事者（家族）向けの事例集として

- 他の当事者の方が地域でどのように工夫して暮らしているのか、どのように資源に繋がったのか、どのように資源を開発したのかを知るツールとなる。
- 当事者の方が地域、近隣のために何かを手伝っているということも多いので、そのような事例を示すことが“自分もこういう事ならやれるのではないか”という動機づけになる。
- これからの当事者家族にとっては、他の当事者家族の取組みが参考になる。
⇒（具体例）例えば、子供の時からの関係性に起因する事例があった場合、新しい親世代の人たちが自身の子どもの資源を開発するにあたり、その事例を知ることはとても重要である。

〔イ〕 事業者・地域・市民向けの事例集として

- 様々な配慮や工夫、手助けをしている事業者や地域の方々に、自分たちのしていることが当事者の方々にすごく役に立っているということを意識してもらえるツールとなる。
 - 他の事業者や地域、市民の人たちが、どのような配慮や工夫、手助けをしているのかという勉強・参考になる。
 - ⇒（具体例）例えば、事例集をコンビニのフランチャイズの方々に見せて、“他のコンビニではこのような対応をしている”ということを知ってもらおうツールとして使える。
 - ⇒（具体例）例えば、地域で暮らしている当事者の方を気にはかけていてもどのように接したらよいか迷っている地域の方が、事例集を読んで接し方の参考とする。
- ◆ また、対象者（主体）にかかわらず、地域の中では、皆がお互いにちょっとした手伝いをし合いながら暮らしているということを広く知ってもらうために、そのような事例を広く共有していくことが、これからの地域共生社会を目指していくうえで重要であるという意見もありました。



〔参考資料〕

あくまで参考であり、必ずしも全く同じ方法での実施をお奨めするものではありません(P.15 参照)。

グループワークの進め方説明資料

平成 29 年度 10 月 泉区障害者自立支援協議会連絡会議

グループワークの進め方

1 グループワークのテーマ

「地域のインフォーマルな資源、ナチュラルな資源の事例共有」

2 グループワークの目的

今年度の仙台市障害者自立支援協議会地域部会では、『障害のある方が今まで以上に地域で当たり前暮らしに暮らしていける社会(地域共生社会)の実現に向けて、地域に眠っているインフォーマル・ナチュラルな資源を把握・共有し、各地域の資源開発に役立てる取組みを進めていこう』という方向性に基づき、個別の事例を収録した事例集を取りまとめ、各区協議会の場で活用できるとよいと考えられています。

その取り組みとして、12月5日に開催予定の平成29年度第2回地域部会に向けて、市自立協事務局から各区自立協、各専門公所へ事例提供の依頼がありました。そのため、今回のグループワークでは、提出事例になりそうな案について共有・検討し、各グループから1事例を選定するところまでの整理を目標に進めてまいります。

3 進行手順

(1) グループ毎に着席（グループ分けは当日の参加人数により現場で調整）

(2) グループワークの趣旨及び流れの説明（3分）

(3) 個人ワーク（7分）

① 把握している資源の書き出し

- ・ 自身が把握しているインフォーマル／ナチュラルな資源を個人ワーク様式に箇条書きで書き出す。

② 事例集の内容に関する要望の書き出し

- ・ 事例集に載っていたら嬉しい内容について、自身の考えを個人ワーク様式に書き出す。

(4) グループワーク

① メンバー自己紹介（3分）

- ・ 所属と氏名を簡潔に伝える。

② 進行役の選定（2分）

〔参考資料〕

あくまで参考であり、必ずしも全く同じ方法での実施をお奨めするものではありません(P.15 参照)。

③ 資源事例の共有（10 分）

- ・ 各メンバーが個人ワーク①で書き出した資源の中から「自分自身が一番興味深く感じている資源」を 1 つだけ選び、選んだ理由を添えて順番に紹介する。
- ・ 他のメンバーは、紹介された内容を掘り下げる質問をその都度することができる。

④ 代表事例の選定（15 分）

- ・ 個人ワーク②で書き出した内容をメンバーが順番に紹介し、グループで共有する。
- ・ メンバー間でここまでの感想を述べ合い、見出された共通性や方向性(どのような資源が事例集にあったら良いか)を基に、グループワーク③で共有した資源事例の中からグループの代表事例を 1 つ選ぶ。

⑤ 事前提出様式への落とし込み（10 分）

- ・ グループワーク④で選ばれた事例を紹介したメンバーは、地域部会への事前提出様式に内容を大まかに書き出してみる。
 - ・ まとめ方が難しそうな項目は、他のメンバーから記入上のポイント等について助言を受け、各項目をまとめることができる見通しが立てられる程度に整理する。
- ※ 各グループから資源事例として選ばれた方には、後日、事前提出様式の清書をお願いします。

(5) グループでの話し合い結果発表（10 分）

- ① 各グループの進行役から、話し合いの流れと選んだ事例を簡潔に発表する。
- ② 仙台市障害者支援課担当からコメントをいただく。
- ③ グループ毎に個人ワーク様式を取りまとめ、事務局が回収する。

以 上

〔参考資料〕

あくまで参考であり、必ずしも全く同じ方法での実施をお奨めするものではありません(P.15 参照)。

グループワークで使った個人ワーク様式

平成 29 年 10 月 泉区障害者自立協連絡会議グループワーク 個人ワーク様式

所 属		氏 名		グループ名	
問 1- ①	自身が把握しているインフォーマル／ナチュラルな資源を <u>箇条書きで</u> ご記入ください。				
問 1- ②	上記問 1-①の中から、「自分自身が一番興味深く感じている資源」に <u>一つだけ○印を付け</u> 、その資源を選んだ理由を簡潔にご記入ください。				
問 2	上記問 1 の資源事例に関わらず、仙台市自立協が取りまとめる事例集について、「どのような資源事例が載っていたら嬉しいか」をご記入ください。				

※ この様式は、グループワーク終了後に回収させていただきます。

〔参考資料〕

あくまで参考であり、必ずしも全く同じ方法での実施をお奨めするものではありません(P.15 参照)。

地域部会として定めた事前提出様式

第2回地域部会に向けた共有事例 事前提出様式

区・公所名		No.	
※行幅等任意調整可			
項目	内容		備考
事例に関する基本情報	本人の状況		
	本人支援にかかる関係者		
インフォーマル（具体的な取組みや社会的資源の内容について）	内容		
	きっかけ・経過		
	今後の見通し・方向性等		
	本人（家族）の思い		
	地域・関係者の思い・やりがい		
その他	資源を知った経緯		
	本人（家族）との接触状況		
	関係者との接触状況		

